

U.S. Indicators

発表日: 2024年9月6日(金)

米国 景気拡大持続も高い金利とコストがリスク(8月ISM非製造)

～ISM非製造業景気指数は高金利、高コストのもと米景気の秩序だった減速を示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年8月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、51.5(前月51.4)と前月比0.1%ポイント上昇し、市場予想の51.4(筆者予想51.8)を上回った。雇用、活動指数が低下したが、新規受注、入荷遅延の上昇によって、拡大・縮小の分岐点となる50を上回って上昇し、非製造業部門が前月とほぼ変わらないペースで拡大を続けたことが示された。非製造業景気指数の構成項目では、需要動向を示す活動指数、新規受注が比較的高い水準を維持しており、米景気の秩序だった減速を示唆している。調査対象企業の回答でも、多くの業界で緩やかな成長から中程度の成長が報告された。ただし、継続的な高コストと金利圧力が事業活動に悪影響を及ぼし、売上などの軟化を引き起こしていることと頻繁に言及されており、FRBの高金利政策による景気悪化リスクが高まっていることが示唆された。

非製造業総合指数の構成項目では、活動指数が53.3(前月54.5、前月比▲1.2%ポイント)、雇用が50.2(前月51.1、前月比▲0.9%ポイント)と低下した一方、新規受注が53.0(前月52.4、前月比+0.6%ポイント)、入荷遅延が49.6(前月47.6、前月比+2.0%ポイント)と上昇した。総合指数への寄与度では、活動指数が前月比▲0.30%ポイント、雇用が前月比▲0.23%ポイントの押し下げ寄与となったものの、入荷遅延が前月比+0.50%ポイント、新規受注が前月比+0.15%ポイントの押し上げ寄与となった。

8月の活動指数は18業種中9業種(前月11業種)が拡大し4業種の縮小にとどまった。また、新規受注は18業種中8業種(前月10業種)が拡大し、5業種が縮小した。両指数とも縮小した業種が限られていることから、非製造業部門は秩序だった減速基調にあると判断される。

サブ項目では、新規輸出受注が50.9(前月58.5、前月比▲7.6%ポイント)と低下し、サービス輸出の増加ペースの大幅な減速を示した。一方、輸入は50.3(前月53.3、前月比▲3.0%ポイント)と低下し、サービス輸入の増加幅が縮小したことを示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が57.3(前月57.0)と上昇し、インフレの下げ渋りが示唆された。18業種中13業種(前月11業種)と多くの業種で上昇した。鉄鋼製品、銅線、ディーゼル燃料が下落した一方、建設関係、契約労働者、技能労働者など労働コストの継続的な上昇のほか、食品等が上昇した。供給不足の分野として、電気機器、変圧器のほか、労働者、家電製品が挙げられた。

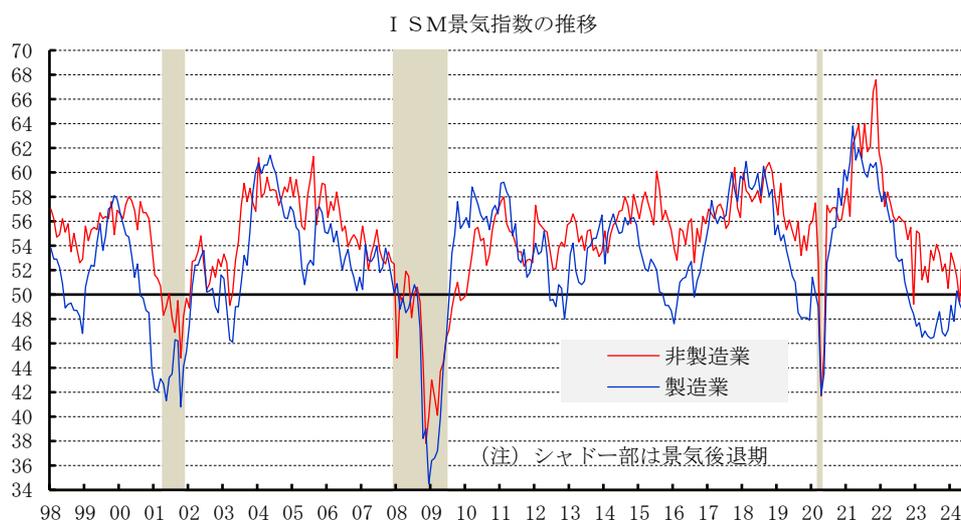
I S M非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動
24/01	53.4	55.8	55.0	50.5	52.4	51.4	64.0	56.1	49.1
24/02	52.6	57.2	56.1	48.0	48.9	50.3	58.6	51.6	47.1
24/03	51.4	57.4	54.4	48.5	45.4	44.8	53.4	52.7	45.6
24/04	49.4	50.9	52.2	45.9	48.5	51.1	59.2	47.9	53.7
24/05	53.8	61.2	54.1	47.1	52.7	50.8	58.1	61.8	52.1
24/06	48.8	49.6	47.3	46.1	52.2	44.0	56.3	51.7	42.9
24/07	51.4	54.5	52.4	51.1	47.6	50.6	57.0	58.5	49.8
24/08	51.5	53.3	53.0	50.2	49.6	43.7	57.3	50.9	52.9

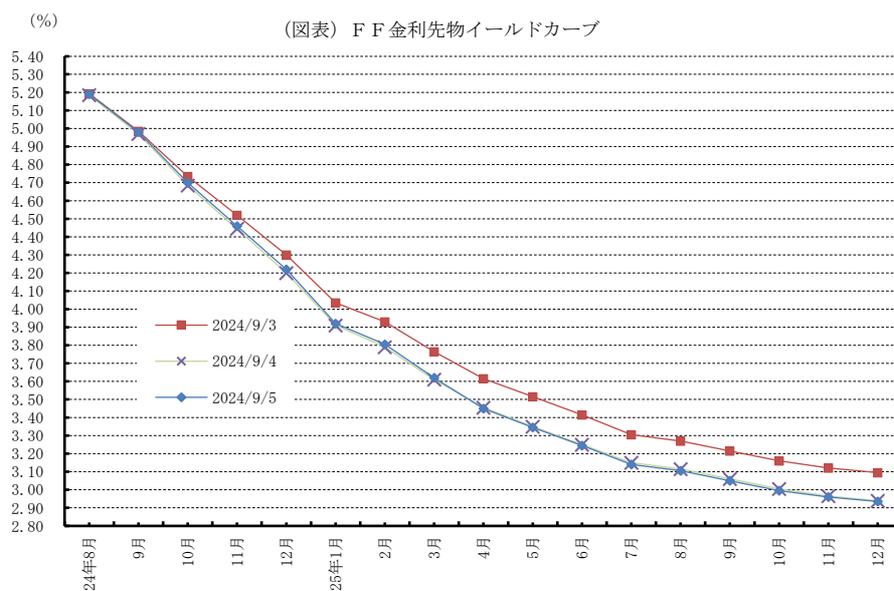
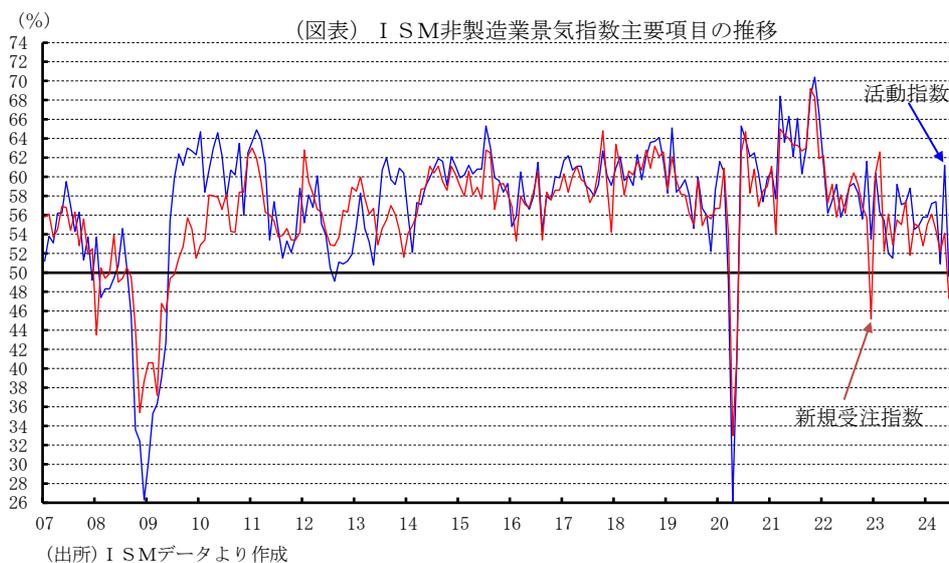
(出所) I S M

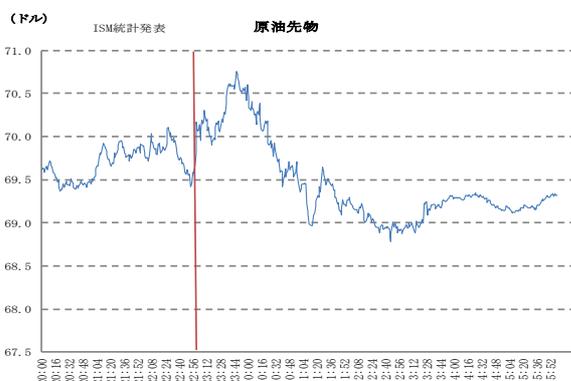
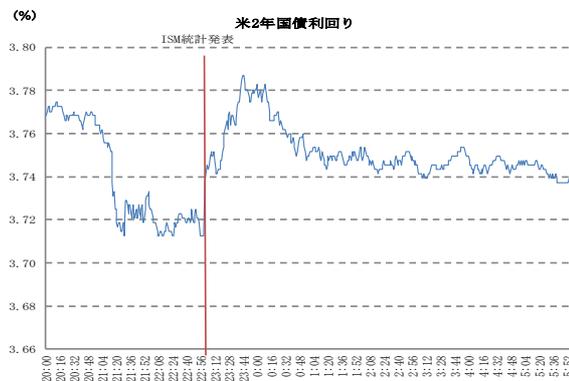
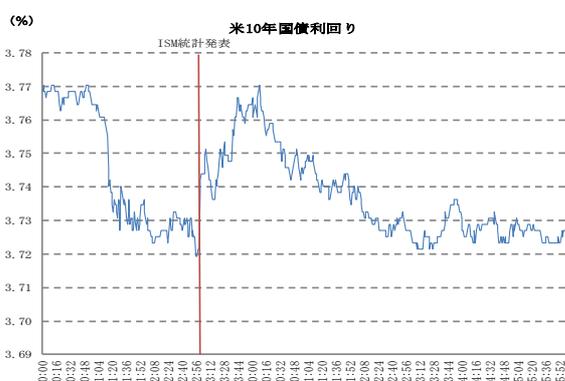
8月に拡大した業種数は、18業種中10業種（前月10業種）と変わらずとなった。拡大した業種は、強い順に、芸術・娯楽・レクリエーション、鉱業、運輸・倉庫、その他サービス、情報産業、医療・社会支援、金融・保険、公的部門、教育サービス、公益（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。一方、縮小した業種は、農林水産業、小売業、建設業、卸売業、宿泊・飲食サービス、企業向けサービス、専門・科学・技術サービスの7業種（前月8業種）に減少した。なお、不動産・賃貸・リース業は変わらずとなった。

米国経済全体の景気動向を示す「I S M総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、8月に51.1（前月50.9）と上昇し、拡大ペースの加速が示された。四半期では、7-9月期（7、8月平均）の製造業が47.0と4-6月期の48.8を下回った一方、非製造業が51.5と4-6月期の50.7を上回った。この結果、7-9月期のI S M総合景気指数は、51.0と4-6月期の50.5から小幅上昇し、7-9月期の緩やかな景気拡大の持続を示唆している。



(出所) I S Mより第一生命経済研究所作成





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

